# 獨逸の地理學界（六）

寺田貞次

伯林大學のつゞき

(16)と(17)とは標本室で、周壁には教授用掛圖、保存箱地理演習諸器械保存戸棚並に地圖函等を初め、岩石地質標本箱を並べ、室中左側には大卓子を右側には地形標本並に地形學用の標本が陳列されて居る、地形學用標本は硝子戸棚二個に保存せられ、重にペンク教授の努力に依つて蒐集されたものらしく、其の蒐集の完備せる事はGeschichte der K.F.W.Universitat zu Berlin (Von Max Lenz 1910)の當地學教室說明中にペンク教授自ら記して居るのを以ても察する事が出來る、海岸の部にはペンク教授が先年日本に來られた際、採集された日本海岸の砂（砂鐵を含めるもの）なども保存されて居た、四圍の壁の上部には世界の森林植物を示す掛圖などが飾られて居る。

(17)も標本室である、然し此方は標本以外に卓子を備へ、學生の研究室を兼ねて居る、周壁には都市の平面圖の如き標本となるべき圖面を飾り硝子戸棚中には地形に關する模型を陳列し一隅には地圖棚を設け世界各國出版の地圖帖を保存して居た。

(18)は植民地理の研究室、一壁に書棚を、植民地理關係書籍を蒐集し、地圖箱地球儀をも備へ、一個の硝子戸棚には植民地の產物を集めて居た、即重に熱帶地方の產物で、パン果とかバヽヤ、まんごう、珈琲、棉花等の類である、他の研究室に比すると未だ日尙淺き爲めにや不完全たるを免れない、イエーガー教授の指導する處で、同教授の演習は此處で行はれて居た。

(19)は寫眞室で、幻象の他、其の引のばしをもなし得る設備は却々大規模で、他のインスチ

チュートでは見られない處であつた、こう云ふ設備が整て居るので寫眞又は幻燈フイルムの製作などは非常に便利でペンク教授の如きエキスカーションにて新に得た材料を早速フイルムに製し次の講義に利用すると云ふ風で、講義も面白く、趣味を引き印象をして深からしむるの利があつた、各種の設備も此處に至りて初めて生きて來ると申して宜しい。

(20)は教室で餘り廣くはないけれども、尙學生百名位は優に收容する事が出來る、入口に對せる側に教壇を備へ、入口のすぐ傍には幻燈機を置き、黑板の傍なる白布に映じ得る樣に裝置されて居る、黑板は數葉を準備し、其一枚には朱にて經緯度と白地圖を畫き、教授上巧に利用されて居た、黑板の兩側には地圖並に圖表掛が完全に裝置せられ、當教室にては標本の所藏豐富なため自然に講義には多數の地圖や圖表を使用しますが、夫等を優に掲げ得るだけになつて居ます、教壇の傍には黑色の地球儀と大形の地球儀とが常に置かれて居り、黑地球儀は地圖學研究の際などに、他は時々使用され此位の大地球儀の備て居る事は反て有益に思つた周壁には額なり圖表なり浮彫圖などが飾られて居り、後壁は一面にアルプスの浮彫圖になつて居る、餘り大きいので置き場所に苦しみ此處に置た形跡も見えますが、又演習の時などに巧に利用するには愉快であつた、側壁には地質時代を示す圖表が掲げられ、當教室の樣に地形地質を盛に述べる處では此圖表は全く必要である、此他側壁には二三の偏額もかゝつて居る中の一枚は地理學の始祖カールリッターの寫眞像である、極く小さい寫眞ながら、自分にとつては是が初めてゞあるので、暫し眺める、アレキサンダー・フオン・フンボルトの肖像と異つて、何となく質素に、如何にも學究的な處を觀ては其の境遇の差のある處など思ひ出でられて、ゆかしく、然も當大學がリッターの初めて地理を講じた處かと思ふと轉感慨の念に堪えなかつた、アレキサンダー・フオン・フンボルトの遺跡はベデカの案内にも載せられ、觀察者の足を引くに反し、リッ

ターの遺跡は定めし訪ふ人もないのであらう是非訪ねて見たいと色々調べた結果漸く發見參拜した、研究室の紹介には要のない事ではあるが機會あらば御話し申さうと思て居ます。

教室は、此の他に尙一つ大講堂があります、階下海洋學博物館二階の中央に位して居る、階段式に造られ優に二、三百人を收容し得る、黑板に對して大規模の幻燈機が備へられて居り、大教室にも拘はらず、前の教室と同樣電氣作用にて容易に暗室になし得るの裝置になつて居る、リユール教授の經濟地理、ペンク教授の地理通論の如きは、此の教室が利用されて居た、地理の教授も是だけ聽講生があれば愉快な事であらうと思ふた。

最後(21)は階下に位せる一室で、海洋學の圖書館になつて居る、地理學とは全く別に、海洋學に關する圖書のみを蒐集して居る、普通の書庫と同樣室內は書棚を以て充たされて居り、陰鬱ではあるが、海洋學の方では室不足をつげて居るのでもあらう、書庫內書棚の間に卓子を置き、事務をもとり、又學生の研究にも供して居る、書物の分類は地理の方とは少々異て居るが由來海洋の研究は單に海洋のフイジカルの方面のみならず、經濟上の關係も多大なものであるからして、經濟地理とは密接の關係があり、經濟地理の部類をも設け、此方面の書物をも蒐集して居る、地理のインスチチユートの圖書室は地理の全般にわたつて居るので、經濟地理の部などは極く代表的のものを備ふるに過ぎないが此圖書室には經濟地理關係等の蒐集は完備して居り、經濟地理擔當のリユール教授が之を管理して居られた。

## 十二、

獨國內に於て、自分の視察した研究室は、以上の如くでありますが、之を總括して觀ますと獨逸では地理の研究室は其の規模の大小、其の設備の如何は各大學に依り一樣でないとはいへ各大學殆ど地理の獨立學科を有せざる處がないと云ふ事、然も夫々相當の努力を以て之が完備につとめて居ることが察せられます、之は吾人

の最愉快とする處であります尙現今の研究室は何處を問はず、以前の研究室とは全然改良されて居る事もわかります、例へばライプチヒ大學の如き、ラツツエル時代の研究室は既に其の影を沒し、新しい研究室になつて居り、ハルレ大學の如きもキルヒホーフ時代とは既に場所を異にし居てり、伯林大學にせよ、現今新しく獨立した研究室になつて居り、ミユンヘンにせよ、フランクフルト大學にせよ、何れも然らざるはない、之れだけでも獨逸に於ける地學が、決して等閑に付せられて居ない、益々改良されつゝある事がわかります。

然も、此の研究室の變化は、單に研究室其のものが以前より其の規模に於て大きくなつたとか別に新設されたとか云ふ事許に止まらない、此の研究室の變化は從て獨逸に於ける地理學研究方針の變化發達を物語るもので、此の點は大に興味を深くする處のものであります、古い大學を觀ますと、以前の研究室が尙其の命脈を保つて、新しい研究室とが、別々に存續して居るのもあり、又全く遺物として保存されて居るのもある、例へば伯林大學の如き、最初の研究室は本館の歷史科の一部として存在して居り、ライプチヒ大學でも、歷史科として、鄕土地理。植民地理の名目で研究室が出來て居ります、此等の以前の研究室を觀ますと、何れも歷史と關係を有し、歷史科と接近して存して居ます、而此等の研究室は何れも參考書以外には多少の標本類があるのみで特殊の設備等もありませぬ。

之に反し、新しく出來た研究室になりますと、以前の研究室の樣に單純でない、圖書なり地圖類は勿論地質の標本から地形の標本迄却々骨折つて蒐集されて居ます、其處に自ら差異のあることが察せられるでありませう、而獨逸では現今は此の種の研究室が殆ど全部を占めて居ります、して見ると現今獨逸に於ける地理の研究傾向の一般も之を察することが出來樣と思はれます、更に之を各大學の講義題目から考察しましても、所謂歷史地理的方面の講義は至て少い、先づ伯林大學でクレツチマー敎授が地圖學史を

講じフォーゲル教授が都市發達地理を講じて居た位に過ぎませぬ、云はゞ歴史地理的研究は聊か下火になつて居ると申さねばなりませぬ、ライプチヒ大學の如きも、歴史地理の研究室は小さいながらによく整つたのを持て居ますが、今は全く放棄の姿となつて居るのを見ても、其の一般を察する事が出來ます。

要するに現今は、單に古典にのみなずまず、地表に立脚して健全に極く科學的に研究するを目的として居ることがわかるのであります。

（終）

# 西遊夢録（十九）

瀧川規一

## 蘇國の部

### （XX）エヂンバラ市及び其附近

【グレイフライヤズ墓地】 詩人アラン・ラムゼーが永眠せる墓前に額づきて後有名なる犬の墓を訪ふことになつた。スペクテータ（The Spectator）誌上に掲載された。アトキンソン（Miss Atkinson）の物語『グレーフライヤズのボビー』（Greyfriars、Bobbie）がこの犬を有名ならしめたのであるが、今は犬の像を戴く噴水の記念碑となり墓地の入口近くの橋の袂に賢こさうな顔を見せて居る。

千八百五十年代の頃にグレイ（Grey）と云ふ農夫がミドロシアンの田舍に住んで居つて毎週水曜日にエヂンバラ市の市場に一疋のテリア種の犬を連れてやつて來た。この男はエヂンバラ城頭から號砲が一時を報ずると定つたやうにグレイフライヤズの墓地（Greyfriars、Churchyard）の附近にあるツレイルの食堂（Traill's Dining-rooms）に犬と共に姿を現はし晝食をとつた。犬は蘇國の習慣としてパン（bun）と稱せらるゝ甘パンと時には御馳走として肉附の骨を頂戴した。一八五八年に主人のグレーが死んでこの墓域内に葬られた。葬式の三日後一疋の犬が悲しさうな空腹な樣子をなして食堂に姿を見せ食堂の主人の顔を見上げながら物乞ふ有樣であつた。